【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和８年度学校評価 計画

学校名	吉野ヶ里町立東脊振中学校

1　前年度評価結果の概要	・わかりやすい授業実践（学習内容の定着）について課題が残っている。 ・夢や目標を持つ生徒の育成について、将来を見通すこと、計画的に行動することが十分にできていない。 ・教職員の働き方改革について、在校等時間は減少してているものの、さらに減少するよう進めていく必要がある。。 ・不登校について、依然として不登校生徒の割合は高い。
2　学校教育目標	「自立と尊重　～自ら学び、互いを尊重し高め合う生徒の育成～　」
3　本年度の重点目標	**・学力向上と心の教育については、非認知能力に関する調査を利用し、支援の方法を考えていく。 ・夢や目標を持つ生徒の育成については、学校行事や学級活動、部活動等で称賛の場を設定する。 ・教職員の働き方改革の推進については、教職員の意識改善を図り、在校等時間の削減を図る。 ・不登校対策については、教育相談部会と「不登校生徒支援ネットワーク連絡会」での情報交換を密にし、対応を協議する。**

4　重点取組内容・成果指標

（1）共通評価項目

重点取組			具体的取組	主な担当者
評価項目	**取組内容**	**成果指標（数値目標）**		
●学力の向上	○学習内容の定着に向けた分かりやすい授業の実践	○「各教科の授業がわかる」と回答した生徒80%以上 学習内容の振り返りの工夫をした教員80%以上 ICTを効果的に活用できた教員80%以上 家庭学習時間の目標を達成した生徒80%以上	・　生徒主体で行う「月１満点テスト」の継続。 ・　非認知能力に関する調査ET(エンゲージメントテスト)結果をもとに、学習スキルや自己効力感の観点から授業改善を図る。 ・　生徒へのフィードバックを授業の中に取り入れる。	研究主任：吉田喜美子 学力向上コーディネーター：永田
●心の教育	●生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○道徳に関するアンケートにおいて「自分の道徳性が前年度より高まった、考えが深まった」と回答した生徒80%以上	・　ティーム・ティーチング、ローテーションによる道徳授業を継続する。 ・　朝の会、帰りの会、学年集会等で学校教育目標「自立と尊重」に関する話を教師がしたり、生徒に考えさせたりする場面をつくる。	道徳教育推進教師：権藤
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○学校はいじめ防止に取り組んでいると回答する生徒90%以上 ○いじめの早期発見、早期対応について組織対応ができていると回答した教員100%	・　隔週週末に生活アンケートを行い、いじめの早期発見に努める。 ・　生徒指導主事、学年の生徒指導担当を中心に情報共有を密にする。 ・　複数の目で見る、一人で対応しないを徹底する。	生徒指導：吉田一彦
	●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童生徒80%以上 ●「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童生徒80%以上 ○学校行事、生徒会活動に積極的に参加できた生徒80%以上	・　キャリア教育「夢をかなえる地図」等への計画的な記入と学期ごとのフィードバックを行う。 ・　生徒が学校行事等に参画する場面を意図的に仕組んでいく。	進路指導主事：北村 特別活動担当：上野
	○生徒会3か条 「あいさつ、授業態度、清掃」の実践	○次の3項目すべてにおいてよくできた生徒80%以上 ・自分から元気よく相手の目を見ながら挨拶する。 ・先生の話を相槌を打ちながら聞き、意欲的に授業に取り組む。 ・感謝の気持ちを込めて無言で隅々まで清掃する。	・　ノーチャイムの実施。 ・　教師同士も元気な挨拶を交わす。 ・　教師と生徒が一緒に掃除を行い、掃除について、教師が生徒にフィードバックする	生徒会担当：松尾 清掃担当：木下
●健康・体つくり	●望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成	○　毎日朝食を摂る生徒90%以上	・　給食週間等に「早寝・早起き・朝ごはん」の調査を全校生徒に行う。 ・　家庭科や保健体育などで、食事の大切さを取り上げた授業を行う。	給食指導・食育指導：戸川
	○体づくりのための定期的な運動の実施。	○　部活動や社会体育等の活動を含め、1週間に4時間以上運動している(保健体育の授業は除く)生徒80%以上	・　運動する目的、健康への影響について、保健体育科の授業で取り扱う。 ・　部活動の中で、顧問が運動と健康の関係について話題をもつ。	体育主任・部活動担当：城島、松尾
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則時間外在校等時間の上限に達する職員0（ゼロ）。	・　PTA総会時に保護者に向けてパンフレット「子どもたちのための働き方改革」を使って教職員の勤務にについて協力をお願いする。 ・　定時退勤日の徹底	衛生推進者（教頭）：筒井
	○　計画的な年休取得	○　今年度1年間で13日以上年休を取得した職員80%以上 昨年度平均11日	・　年休を取りやすい環境をつくる。 時間割の工夫 会議の終了時間厳守 長期休業中の会議日程を工夫する。	衛生推進者（教頭）：筒井
●特別支援教育の充実	○特別支援教育における理解と個に応じた支援を行う。	○安心して学校生活を送ることができた生徒80%以上 研修を通して特別支援教育への理解を深めることができた教員80%以上。	・　特別支援教育推進委員会、職員連絡会で学校生活の情報共有を行う。 ・　全職員がふれあい学級の生徒と関わる時間をつくる。 ・　個別の支援計画を年度末に更新する。 ・　教師のニーズに応じた職員研修を計画し実施する。	特別支援教育コーディネーター：古舘

（2）本年度重点的に取り組む独自評価項目

重点取組			具体的取組	主な担当者
評価項目	**重点取組内容**	**成果指標（数値目標）**		
○不登校・長期欠席対応	○不登校の未然防止と不登校生徒の社会的自立に向けた支援の充実	○不登校（年間欠席30日以上）生徒の割合が前年度から減少する。 前年度8.2%	・　QUテストの結果分析や生活アンケートなどから不登校予備軍を洗い出す。 ・　教育相談支援員が不登校予備軍に対し定期的に教育相談を行い、不安解消に努める。	教育相談担当：松尾

●･･･県共通　○･･･学校独自　◎･･･志と誇りを高める教育

5　総合評価・次年度への展望	・ ・ ・